



中部山岳国立公園

「立山」

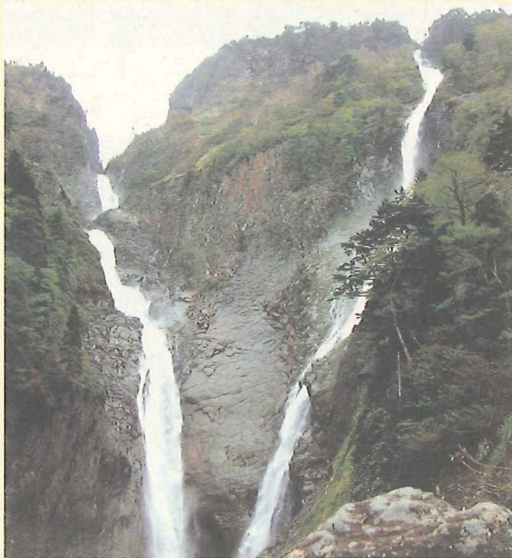
「富山署」山岳信仰のシンボルとして「神が棲む山」と崇められた立山、以前は一部の修験者だけが見ることができた神秘的な山も、今では誰もが気軽に高山植物の群落や噴煙あがる地獄谷等、標高三、〇〇〇m級の雲上の景観を楽しむことが出来ます。

称名滝

「日本の滝一〇〇選」

主峰雄山を源に地獄谷、弥陀ヶ原高原、大日岳の清水を集めた称名峡谷から四段に折れて一気に流れ落ちる「称名滝」は、落差が日本一の三五〇mもあって、国の名勝、天然記念物に指定されています。

雪解け等の豊水時に右手に



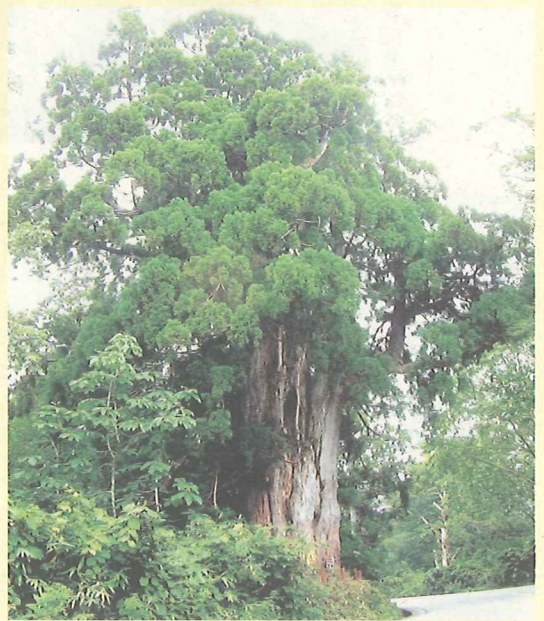
豪音と爆風の称名滝

「ハンノキ滝」が現れ、称名滝の滝壺めがけて斜めに滑り落ちる。五〇〇mの白い帯は、称名滝の景観に一層の光彩を添えます。

タテヤマスギの巨木

「森の巨人達一〇〇選」

美女平から大観台までの三〇〇鈴には幹周り六m以上の巨木が一四七本もあり、八m〜九mの巨木もあります。タテヤマスギは主に富山東部の高地に自生する天然性スギの総称で、この一帯は国内でも数少ない天然性スギ巨木の集団の生育地です。一度、歩いてみて下さい。



「仙洞スギ」幹周り九・四m

弥陀ヶ原

立山連峰の紅葉は、九月中旬から始まり、秋の深まりと共に徐々に降りてきて、弥陀ヶ原では、ナナカマド、ダケカンバ等の木々が色づき、夏までのおもむきを一変させます。大高原に赤黄緑のジュウタンを敷き詰めた景観は目を楽ませてくれるでしょう。

アクセス方法

立山駅より称名滝へはバス又は車で二〇分、徒歩三〇分
立山駅より美女平へはケーブルカーで七分、美女平より弥陀ヶ原へは高原バスで約四〇分